

平成 26 年度第 11 回政策会議概要

- 1 開催日時：平成 26 年 10 月 20 日（月）8:45～9:45
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 1 「県民の声を受けて」公表分の概要について

●竹内戦略企画部長（資料 1 に基づき説明）

県民の声を受けて、9 月 16 日、10 月 1 日及び同月 16 日付けで県ホームページに公表した概要であるが、県民の声の件数は 57 件で、県の対応件数は 62 件であった。

主な内容としては、職員に関するものとして、職員の職務・給料についての提案意見が 1 件、職員のマナーについての苦情が 1 件、職員の対応についてのお礼が 1 件寄せられている。

また、県政への反映区分のうち「県民の声を受けて実施した」が 1 件あった。各部局においては、内容をよく確認し、適切な対応をお願いしたい。

（質疑等なし）

議題 2 ワーク・ライフ・マネジメントの上半期進捗状況について

●森行財政改革推進課長（資料 2 に基づき説明）

ワーク・ライフ・マネジメントの上半期の進捗状況について、数字が取りまとまったので報告する。年休取得時間、時間外勤務時間及び超長時間勤務者ともに目標を達成する見込みである。

ただし、各部局の状況を聞いていると上半期の実績が芳しくないところもあるので、目標必達意識を持って、どうして目標が達成できなかったかを考えるのではなく、目標を達成するためには、部局、所属で何をすべきかを考えていただきたい。

当課においても各部局で現在行ってもらっている検証結果をふまえて、よい取組は水平展開していく。

☆植田副知事

現在は、目標を達成する見込みということなので、下半期も目標必達意識を持って、しっかり取り組んでいただきたい。

議題3 平成26年度予算の上半期の契約状況等について

●藤嶋財政課長（資料3に基づき説明）

平成26年度予算の早期実施については、5月の政策会議において県全体の数値目標を定め積極的に取り組んできたところであるが、9月末の契約率は70.6%で、9月末目標（契約率60%以上）を達成したので報告する。

（質疑等なし）

議題4 三重県観光キャンペーン第4弾オフィシャルガイドブック等について

●加藤観光・国際局長（資料4及び配布資料に基づき説明）

三重県観光キャンペーン第4弾オフィシャルガイドブック及びエリアパンフレットを発行しましたのでご報告する。

（質疑等なし）

議題5 政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

●山本企画課長補佐（資料5に基づき説明）

政策創造員による調査・研究活動の目的、中間報告の位置づけ等について説明を行った後、WG1からWG4までの各グループから発表

☆石垣副知事

今回のテーマは三重県が抱えている大きな課題ばかり。各部署で課題を持って取り組んでいるので、部長が驚くような提案がほしい。

また、現場感覚が必要になる。例えば、外国人は、行政が支援する対象から協創の戦力になってきているので、直に接している市町やNPOの動きも重要である。

（景気が悪くても、）県内企業の全てが悪いわけではない。例えば、100社あれば10社はすごいことをしている。最高の取組をやっているところに着目してほしい。厳しい中でも生き抜く経営者感覚がほしい。

文化には、「情」、「伝統」、「浪花節」があってもいいように感じる。

これから、チャレンジして頑張ってもらいたい。

☆植田副知事

WG2の「極限困難未来」について、お先真っ暗ではなく、三重県を明るくしてほしい。暗い現実をそのまま捉えるだけでなく、明るい方向に持っていきける

ように。半分以上は現場に答えがあるので、それを聞いて政策につなげてほしい。

☆竹内戦略企画部長

戦略企画部において、人口の社会減対策について、「学ぶ」「働く」「暮らす」観点から検討しているので、WG2のテーマは大いに関連している。移住対策について、集落単位で見たときにどれぐらいの人が移住してきて、20～30年のスパンで集落維持にどれだけの効果があるのか、移住対策の効果の視点も加えてもらえるとありがたい。

☆高沖環境生活部長

WG4の農山漁村の文化の関係で、それをどう支えていくか悩んでいる。最後の一人になっても日本の誇りとして文化を維持、再生、発展させるとあるが、そういう状態で文化の果たす役割が期待できるのか、しっかり考えていかなければならない。力強い提言をお願いしたい。

WG3の外国人パワーでは、三重県の特長を活用して、しっかり研究してほしい。

☆西城子ども・家庭局長

WG1は、子ども局ができてから取り組もうとしてきたことを正面から取り上げている。三つの「ち」のうち、「血」の意味することが読み取れないので、健康という観点から補強してほしい。

「三重県における体験機会の格差」が具体的に何を指すのか分からない。

「行政の下手な専門家の支援より、本気の大人と活動を」とあり、ある意味その通りと思うが、一方で行政には専門家が実際に存在するので、専門家が専門家であり続けるために、県や市町の何が不十分なのか検討してほしい。

現時点では、WG1が一番深掘りしているように感じるので、楽しみにしている。

☆橋爪農林水産部長

WG4の農山漁村ルネサンスについて、文化は人が生活するところで生まれるものと理解している。人がいなくても大丈夫という大胆な設定で研究しているが、「経済的価値創出」や「新住民の定住」に結びつける過程を明らかにしてほしい。

ある程度人がいるところにシステムを持って行くのか、ゼロでも十分機能するシステムなのか、もう少し分かりやすくほしい。

☆稲垣総務部長

WG2について、国の推計も人口1億人を維持することとしており、基本的に縮小均衡を図っていくトレンドの中での提言と考える。縮小均衡は痛みを伴うので、ゴールに至るまでのプロセスを注視して考えてほしい。人口減少と高齢化が進み、収入減と支出増となるトレンドは是とするが、前提条件が不明なので、数値を了とできるかは分からない。

20年先も活躍しているのは報告者の皆さんなので、シビアな見方による提言もいいが、厳しい中にも希望が見えるように、プロセスを大事にしてほしい。

☆加藤観光・国際局長

WG4について、「価値の共有の手法」では、見える化し、情報発信することにとどまっているが、価値協創の考え方で、多様な主体と一緒に価値をつくっていくことが必要になる。「手法」では狭いので、ともに価値をつくるために、行政がどう調整するかが重要である。今後、最終報告に期待している。

☆鈴木知事

自分の業務がある中で、調査・研究活動に取り組んでいることはありがたい。3点申し上げる。

調査・研究の目的は「中長期的かつ部局での取組が困難な課題を対象に、既存の枠にとらわれず幅広い視点から調査・研究」である。今年のテーマは普通なので、解決策において「目的」に適うようなものになることを期待している。大胆に行ってほしい

普段の業務でも感じることもあるが、言葉遊びに終始しないようにすること。言葉だけが先行して、中身が伴わないものとならないようにしてほしい。あくまで政策を提案する場面なので、しっかり政策を提案してほしい。

政策創造員会議が発足したときから言い続けているのは、「課題の発見」をしっかり身に付けてほしいということ。課題の深掘りが四つのWGともまだまだ弱い。

例えば、WG1では、「子どもの体験機会の減少」とあるが本当に減少しているのか、そのファクトは何か、体験機会が減少しているのは場所が少ないからなのか、少子化で人口減少しているから体験する子どもが減少しているのではないか、何故体験機会が減少しているのか、等の深掘りが足りないから政策に結びついていない。

WG2では、危機感を共有できていないのは、データが出ていないからなのか、データが出れば危機感を持つのか。例えば、平成2年に1.57ショックが出たときに、日本中の人たちが少子化対策にのれたのか。のれていないから今があるのだと思う。数字を出したら皆が危機感を持つのか。課題の深掘りをしないと、

解決策として大胆な政策、有効な政策が出てこない。

三つ厳しめに言ったが、ラストスパートでしっかりやってほしい。この政策実現のために頑張りたいと思えるような政策を提案してほしい。

普段の業務もあるが、妥協することなく、しっかり取り組んでほしい。

その他（三重県民手帳の発行について）

●竹内戦略企画部長

「三重県民手帳」が10年ぶりに発行される。データ等資料も充実した使いやすいい手帳となっており、11月4日発売に向けて、予約を開始している。県職員には、販売案内をさせてもらうので、是非とも購入いただきたい。

☆石垣副知事

統計課から情報提供を行い、三重県印刷工業組合がしっかりと作りこんでいる。ここにいる幹部職員には、一人一冊とは言わず、何冊か購入してもらいたい。

その他（当初予算要求について）

☆植田副知事

来年度当初予算の作業が進んでいると思うが、事業をしっかりと精査のうえで要求されたい。要求後、予算議論となるが、議論の出発点は大切であり、よろしくお願ひしたい。